

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

南北次官級会談開催

2005年5月16日～19日、開城にて南北次官級会談が開催された。2004年の夏以降、接触が途絶えていた南北関係を推進するための会談として成果が期待された会議であった。会談後に発表されたコミュニケでは、朝鮮半島の平和のために努力することが謳われたほか、次の事項が合意された。南北首脳会談5周年を記念して平壤で行われる統一大祝典に閣僚級を団長とする南側の政府代表団を送る。

第15回南北閣僚級会談を6月21日～24日にソウルで開催する。南側が人道主義と同胞愛の立場から、肥料を20万トン追加で支援する。

統一大祝典の開催と南側政府代表団の参加

6月14日から17日まで、平壤で南北首脳会談5周年を記念する615統一大祝典が開催された。南北から各々615名が参加する大型交流行事であった。6月17日には、北側の金正日国防委員長が南側の鄭東泳統一部長官（統一相）と会見し、南北離散家族の再会事業や南北将官級会談の再開で合意するなど、南北関係については相当の譲歩がなされた。注目される核問題については、米国の態度変化が先決であるとしながら、譲歩の用意があることをほめかけた。南側の統一部長官が金正日国防委員長に面会するのは、2000年9月以降5年ぶりであり、きわめて珍しい。核問題は米国と直接交渉するとの基本的立場は崩さず、南北関係においては南側に譲歩することにより、現実的な利益を引き出す会談だったといえる。鄭東泳長官にとっては、大きなプレゼントになったが、北側としては貸しを作った会談だったと言えるだろう。南側としては、核問題で北側に譲歩することはできない情勢で、この貸しを肥料の追加支援や食糧支援など「人道支援」「同胞愛」で返すことになると思われる。

第15回南北閣僚級会談開催

6月21日～24日、第15回南北閣僚級会談がソウルで開催された。閣僚級会談は、2004年5月に開催されて以来、約1年2ヶ月ぶりの会談となった。今回の会談では、統一大

祝典の際に行われた金正日国防委員長と鄭東泳統一部長官の会談で合意された内容の履行問題が主な議題となった。合意事項は次の通りである。

8月15日に南側で開催される光復（解放）60周年行事への北側政府代表団の派遣。朝鮮半島の非核化を最終目標として、雰囲気醸成されるに従い、核問題を対話の方法で平和的に解決していくための実質的な措置をとっていく。離散家族の面会を8月26日から行うと同時に、金剛山に面会所を建設する。また、生死確認等の方法について、赤十字会談を8月中に実施。解放60周年となる8月15日をめぐり、離散家族の画像面会（テレビ会議システムによる面会）を試験的に実施する。そのための実務接触の7月10日頃に行う。1905年に締結された第2次日韓協約締結が源泉的に無効であることを確認。また、豊臣秀吉の朝鮮出兵に対する地元義勇軍の戦いを記念して約300年前に建立され、現在は靖国神社にある北関大捷碑の返還についての措置を行うことと伊藤博文を暗殺した安重根の遺骨を共同で発掘することについても合意した。第3回南北将官級会談を白頭山で行う。黄海での平和定着のために水産協力実務協議会を設置し、7月中に開催。共同漁労などの水産協力問題を協議する。農業分野での協力のための農業協力委員会を設置し、第1回協議を7月中旬に開城で開催する。北側の民間船舶の済州海峡（朝鮮半島と済州島の間）の通過に合意し、実務的措置を行う。同胞愛と人道主義的見地から南側が北側に食料支援をすることとし、具体的な内容は第10回南北経済協力推進委員会で協議。

第10回南北経済協力推進委員会を7月9日～12日にソウルで開催し、経済協力を積極的に推進していくための措置をとる。第16回南北閣僚級会談を9月13日～16日白頭山で行い、第17回南北閣僚級会談を12月中に南側地域で開催する。

今回の閣僚級会談は、核問題については象徴的な文言が取り込まれたに過ぎない一方、歴史問題における南北間の共闘や経済協力の推進が多く盛り込まれ、北朝鮮にとっては当面の利益を得た内容となった。

（ERINA調査研究部研究員 三村光弘）